

「自分の人生を生きるということ」

あなたの前に大きな川が流れていて何本も橋が架かっています。橋の向こうに何があるのかわかりません。渡ることができるのは1本だけです。1つの橋を選んだら、別の橋の先がどのような景色になっているのか、知ることはできません。

あなたよりも年上の人はいいます。「丈夫で大きな橋を渡りなさい。その橋の向こうには立派な町がありますよ。」でもその人も自分の人生では1本の橋しか渡っていません。小さな橋や、曲がりくねっている橋を渡ったらどこに着くのか、経験したことはありません。

本を読むと過去の人がどの橋を渡ってどんなところにたどり着いたのかがたくさん紹介されています。それでも同じ橋を渡ったからといって、自分が同じ町に着くとは限りません。

自分の選択で橋を選び、渡った先に良い町があったとき、人は善意で同じことをするように若者に勧めます。でももっと良い町にたどり着く可能性はあるはずですし、自分で選ぶということが人生でもっとも大事な要素であることを実は誰もが知っているのです。

曲がりくねった橋を渡り、小さく貧しい町にたどりついたとしても、やがてその町を大きくて素晴らしい町に変えることができるかもしれません。そしてさらに次の橋を渡ると見たことのないような景色に出会うことがあるかもしれません。

自分で選ばずに、他人の選んだ橋を渡り続け、嵐もなく立派な町に住み続けることも一つの選択だと思います。ただ一つ言えるのは「結論がわかっている物語」が好きではない人は良く考えたほうが良いということです。

橋はいつ渡っても良いのです。私たちの住む国は橋をみんなで同じタイミングで渡ることが大好きです。別の言い方をすると、そのタイミングで渡らないと周りの目が気になってしまいます。時がたつと新しい橋が架かっているかもしれませんし、自分の選ぶ目も変わっているかもしれません。いつ渡るかは自分が決めて良いのです。

結果は橋を渡り終えて「この橋を選んでよかった」と思えることですべて報われます。大切なことは「自分で選んだ」と自信をもって言えることです。

私は橋を渡り切っています。自分の渡ってきた景色についてみなさんにアドバイスすることもできます。みなさんは色々な人の意見を聞くことは大事ですし、過去の人々の歴史を本で読むことも必要です。でもどの橋にするかはしっかり自分で決めてください。